



つながりあう安心、笑顔が輝く 暮らし

コープみえ サステナビリティレポート

2025



コープみえキャラクター
みえっぴい

コープみえの事業、社会、環境活動の報告書です。
コープみえ SDGs 行動宣言に沿って 2024年度の活動をまとめました。

生活協同組合  コープみえ



サステナビリティレポートの発行にあたって

みなさま

この度は、生活協同組合コープみえのサステナビリティレポートをご覧いただき、誠にありがとうございます。

私たちコープみえは、暮らしの願いを大切に、地域の皆さまと共に歩み、持続可能な社会の実現を目指して日々活動を続けてきました。そのために「こんな商品を扱ってほしい」「この商品のここを改善してほしい」という暮らしのなかの小さな願いを大切に、みんなの力で解決してきました。そのことはやがて、社会全体をより良くしていく力にもなっていくはずです。そして、私たちの理念である「つながりあう安心 笑顔が輝く暮らし」は平和な社会を未来に引き継いでいくという大きな願いにつながっています。

しかし、今の社会においては「つながり」より「分断」が目立っています。世界では様々な問題が深刻な状況になり、分断を一層際立たせています。格差や差別がひろがり、経済を最優先にした社会の発展がもたらした地球温暖化は沸騰とまで言われる状況です。多くの子どもたちが戦火のなかで血を流し続けています。自分だけがよければ、それでいいというような風潮が、私たちの身近にも、国と国との間でも広がっているのではないのでしょうか。



2025年6月
生活協同組合コープみえ
理事長 鈴木 稔彦

生協では、暮らしの小さな願いを大切にしてきたからこそ、「この商品美味しいよね。」「私もお気に入り」という小さな共感がたくさん生まれています。なにげない小さな共感がお互いを尊重しあう関係、ささえあう関係を創り出し、やがて大きな力となって、平和な社会を築いていくことになるのではないのでしょうか。

このサステナビリティレポートでは、私たちのこれまでの取り組みや成果を詳しくご紹介しております。皆さまのご理解とご協力を賜りながら、これからも持続可能な社会の実現に向けて努力してまいります。

今後とも、生活協同組合コープみえをどうぞよろしくお願い申し上げます。



コープみえの事業



★ 宅配事業

毎週1回、決まった曜日に指定された場所に商品をお届けしています。商品の受取方法は、暮らしに合わせて、班、個人などから選んでいただけます。商品の主な仕入先は東海の3生協（コープあいち、コープぎふ、コープみえ）でつくる東海コープ事業連合です。



★ 店舗事業

まつさか店（松阪市）とみやがわ店（伊勢市）の2店舗があります。組合員にとって必要なお店、私のお店と思ってもらえるお店づくりをすすめています。

★ 福祉事業

「安心」「笑顔」「健やか」「想い」「共有」を大切に、利用者一人ひとりに合った自立をめざしたサービス提供を心がけ、福祉サービスをすすめています。



★ 暮らしの事業

暮らしに役立ち、より豊かにするために、共済事業、夕食宅配、葬祭、宅配灯油、保険、すまいの事業、その他の斡旋サービス事業などをすすめています。

■ 組織の概況 (2025年3月20日現在)

名称	生活協同組合コープみえ
設立	2003年3月21日
本部所在地	〒514-0009 三重県津市羽所町379
事業エリア	三重県一円
組合員数	211,081人
出資金(10千円)	50億9,180万円
加入率	27.7%
役員	理事23人 監事5人 理事長 鈴木稔彦 専務理事 鈴木克彦
職員数(出向者含む)	ゼネラル(正規職員) 262人 ジョブ(パート職員) 239人
子会社 スマイルサービスみえ	事業高 3億7,428万円

■ 経営状況 2024年3月21日～2025年3月20日

総事業高	239億7,536万円
供給高合計	233億6,312万円
福祉事業収入	4,370万円
その他事業収入	5億6,853万円
事業総剰余金	54億5,497万円
事業経費	49億3,220万円
事業剰余金	5億2,276万円
経常剰余金	6億1,799万円

■ 事業所・事業内容

宅配事業 9センター	桑名、四日市、鈴鹿、津宅配、津南、松阪、伊勢、紀北、伊賀
ステーション	全県
店舗事業2店舗	まつさか店(松阪市) みやがわ店(伊勢市)
福祉事業1事業所	福祉サービスセンター松阪(松阪市) 事業内容: 通所介護事業 居宅介護支援事業 訪問介護事業
暮らしの事業	共済事業(受託)、夕食宅配事業、 斡旋サービス事業

■ 関連組織紹介

生活協同組合連合会 東海コープ事業連合	東海3生協(コープあいち、コープぎふ、コープみえ)が出資し、会員単協の商品、物流、情報システム等を合同し、事業を推進しています。
株式会社 コープサービス東海	東海3生協、東海コープ事業連合が出資し、損害保険代理事業、生命保険募集に関わる業務を行っています。
株式会社 スマイルサービスみえ	コープみえの子会社として、宅配や夕食宅配の配送業務、施設・設備の保守・管理・清掃業務、暮らしの便利屋等を行っています。

“つながりあう安心 笑顔が輝く暮らし”の基本理念のもと、組合員との絆を大切に、地域や行政・諸団体、メーカー・生産者と連携し、持続可能な社会の実現に向けて取り組んできました。*年度の取り組み報告です

2014



2015



2016



2017



2018



2019



2020



2021



2022



2023



誰もが安心して暮らし続けられることを めざした地域との協定

地域の問題解決や地域社会づくりへの参加として、行政や社会福祉協議会と地域の見守りに関わる協定、生活困窮者の支援に関わる協定、災害に関わる協定を各地域ですすめています。

地域見守り協定(ネットワーク含む)

地域見守り 高齢者等の見守りと 支援に関する協定とは

配達等の訪問先で高齢者、障がい者、子ども及び子育て家庭に異変を察知した場合に、連絡等の必要な対応を行う協定です。

生活困窮者自立支援協定 (地域共生社会含む)

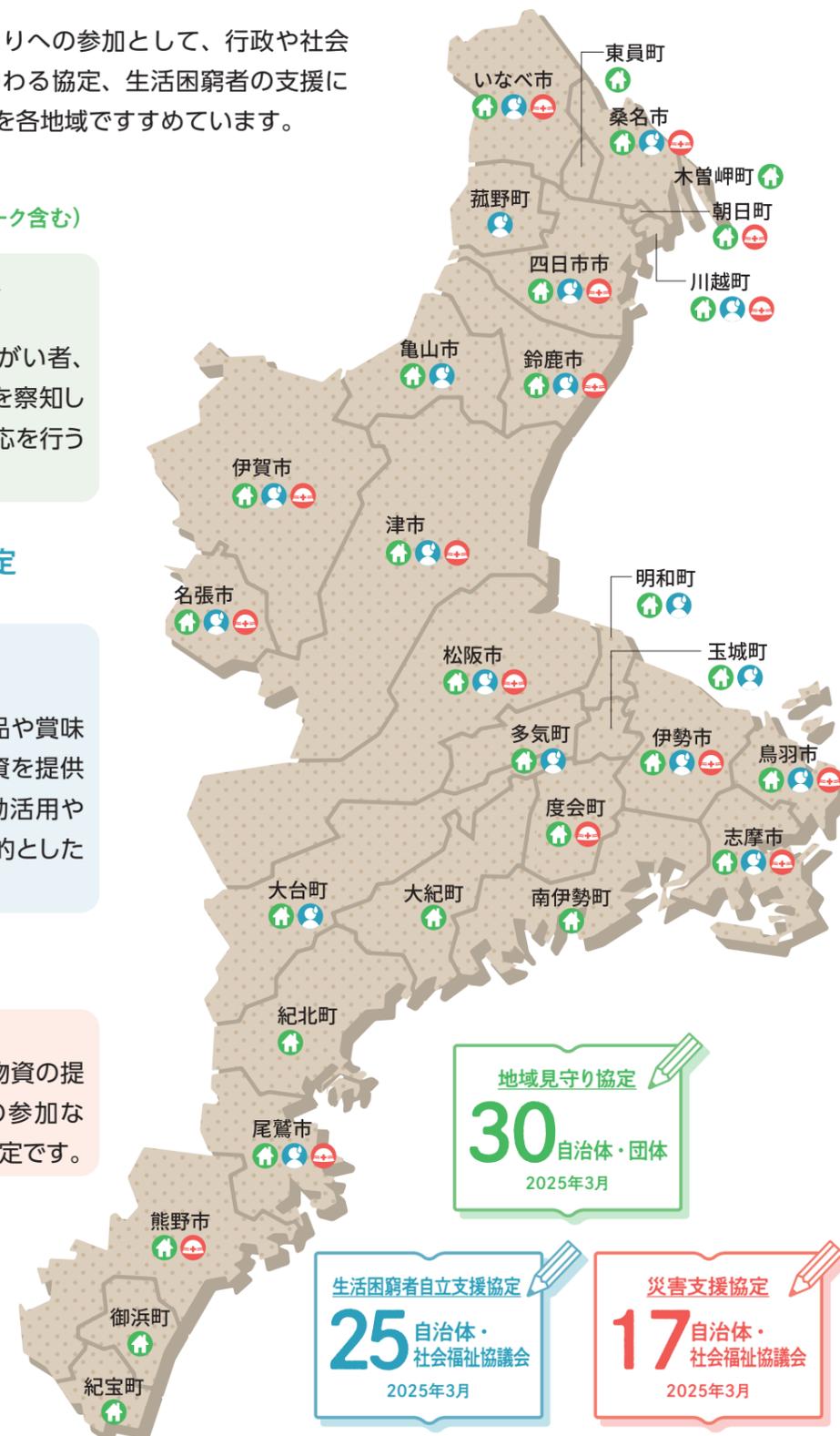
生活困窮者自立支援事業の 連携に関する協定とは

コープみえで保有する余剰商品や賞味期限が短くなった防災支援物資を提供することにより、食品等の有効活用や地域福祉に寄与することを目的とした協定です。

災害支援協定

災害に関わる協定とは

災害が発生した際の緊急支援物資の提供や平時の地域防災訓練への参加など、市町との連携をすすめる協定です。



コープみえの理念

みんなの願い 基本理念

「つながりあう安心、笑顔が輝く 暮らし」

～ 平和な社会を未来に引き継いでいきます～

2030年ビジョン

「2030年ビジョン」と「SDGs」の基本的な考え方やめざす方向は同じです。コープみえは、ビジョンの実現に向けた事業と活動を通して、SDGsの達成に貢献できるようにします。

ビジョンに掲げられているキーワード「地域」「食と健康」「人」を、コープみえのSDGs行動宣言で掲げた7つの取り組みとつなげて考えることで、コープみえの取り組みとSDGsのそれぞれの目標とのつながりを分かりやすく伝え、ひろげていきます。

ビジョン 1

安心して暮らし続けられる地域社会づくりをすすめます

目標

- ①地元メーカー、生産者の商品を通して産業と地域の活性化をはかります
- ②すべての地域で組合員が事業と活動に参加しています
- ③各協同組合の強みを出し合って、SDGsの実現をめざします
- ④世界平和の実現に貢献します
- ⑤事業と活動を通して、脱炭素社会への取り組みをすすめます



※ 2030年ビジョンのイメージイラスト

ビジョン 2

よりよい「食と健康」のある暮らしをめざします

目標

- ①安全・安心なものを手に取りやすい価格でお届けします
- ②食品ロスを減らすしくみをつくります
- ③子どもたちへ安定した食事と健康を提供します
- ④全ての人々が健康的な生活を送るための情報を提供します



ビジョン 3

すべての人への配慮や思いやりを大切にします

目標

- ①だれもが利用しやすいしくみをつくります
- ②ジェンダー平等・障がいのある人をはじめ、あらゆる人が活躍できる場所をつくります
- ③地域のつながりをつくることで、地域の困窮への助けあいの輪を広げていきます
- ④人と地域に役立つような人づくりをすすめます
- ⑤気持ちの良いあいさつを心がけ「まち」の治安に貢献します
- ⑥育児、介護で悩んでいる人へのサポートをすすめます



「コープみえSDGs行動宣言」

～SDGsを実現するための7つの取り組み～

SDGs (持続可能な開発目標) を
組織と地域の中にひろげあい
推進します。

コープみえでは、2019年第17回通常総代会で「コープみえSDGs行動宣言」を採択しました。

SDGsの達成目標は、これまで生協が大切に、取り組んできた活動や事業そのものといえます。

「2030年理念・ビジョン」のもと、「コープみえSDGs行動宣言」をすすめるとともに、私たち組合員が希求する理念とビジョンの達成をめざし、2030年に向けて引き続き協同の力で持続可能な開発目標 (SDGs) の実現に貢献していきます。



SDGsとは
SDGs (エス・ディー・ジーズ) とは、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ (行動計画)」に記載された、国際的な取組目標である「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」の略です。持続可能な世界を創出するために、2030年までに全ての国や地域で取り組むべき17の目標とそれを達成するための169の具体的な取り組み内容、取り組みの成果を計るための232の指標で構成されています。



*「親子で学習するサステナブルすごろく」

親子向け学習ツールとして「サステナブルすごろく」を作成し、SDGsを身近に感じてもらう取り組みをすすめています。また、環境活動に身近に参加できる取り組みとして、エコファミリー通信誌で情報発信しています。

* 三重県推進認証マーク登録

三重県がすすめるSDGs推進パートナー制度に登録されています。地域のみなさんとともに積極的な取り組みをすすめています。

認証登録制度とは

三重県内における企業や団体等のSDGsに向けた取り組みを見える化し、県が後押しすることで持続可能な社会の実現をめざすことを目的とした制度です。



2030年到達目標 (めざすもの)

SDGsを実現するための7つの取り組み		おもな到達目標(めざすもの)
1	持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます	・地元産商品の取り扱いが増え、県内企業及び生産者と連携した取り組みの展開 ・地元商品の利用点数
2	地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します	・CO ₂ 総排出量=802t以下 60%削減 (2013年比)
3	世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します	・フードバンクなどへの提供数 ・子ども食堂の数 ・食品廃棄量の重量と金額
4	核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します	・日本が核兵器禁止条約に批准 ・平和についての署名数・募金額
5	誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します	・組合員数28万人 ・災害協定 全29市町
6	健康づくりの取り組みをひろげ、福祉事業・助け合い活動をすすめます	・健康情報の提供数 ・食育の情報提供数、学びと体験の場づくりの数
7	ジェンダー平等 (男女平等) と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します	・障がい者雇用率6.1% ・女性職員比率30%以上 ・女性管理職比率20%

職員からのSDGsへの思い

職員のSDGsへの理解や行動が一步ずつすすんできました。日ごろ感じているSDGsへの思いを聞いてみました。



事業・活動企画課 加藤 利佳

人参やじゃがいもは皮ごと料理します。大根の皮も胡麻油と塩コショウ、七味でいいおつまみになります。リンゴやナシも皮付きばかりです。



共済課 坂口 武臣

最近、壊れていた太陽光パネルを修理しました。修理代は痛かったのですが、晴れた日の昼間は自然エネルギーで生活ができ、月々の電気代の節約にも繋がりました。



津南センター 吉住 裕

高齢化がすすんでいることから、高齢の組合員と接する際は大きな声で名前を呼ぶ、欠点などの案内は誤解を招かないよう簡潔に伝えるように心掛けています。



福祉サービスセンター松阪 鈴木 圭子

私が実践していることは、家の周辺道路に落ちている空き缶やごみをすぐに拾うことです。少しでも環境にやさしい行動ができればと思い、自分なりに行動しています。



健康・安全課 村田 英道

商品をお客さんに売る際の考え方に先入れ先出し法というものがありますが、少しでも食品ロスをなくすために、買う立場の時でも商品棚の手前から購入しています。



四日市センター 森田 裕一

前職も大阪で生協の職員をしていました。その時からずっと「担当者の役割は商品を届けるだけでなく、組合員に対して何ができるかを考えて行動すること」だと思って組合員と接しています。

I 持続可能な生産と消費のために、 商品とくらしのあり方の見直し活動



メーカー、生産者とのパートナーシップ 地産地消

安心して食べられる食料の安定的な確保や、多様な産物を育む地域の活性化、環境保全を実現するための取り組みのひとつとして、「産消提携活動」をすすめています。

お米づくり体験(田植、収穫) @JAいがふるさと交流田

お米づくり体験は、参加者が田植えや収穫の体験を通して食文化を学び、食に関心が持てるようにすすめています。また、食が生産者や多くの関係者に支えられていることを知り、地元のお米の利用につながることをめざしています。



参加者の声

収穫体験では、とても楽しかったです。最初は難しかったけど最後は鎌の使い方に慣れてきました。

産地交流 @紀ノ川農協、JA多気郡、JA伊勢三重南紀

紀ノ川農協と、安全安心な生産物を安定してお届けするための持続可能な地域づくりにともに取り組んでいます。JA多気郡、JA伊勢三重南紀と、みかんの産地見学&収穫体験を通して組合員と生産者の交流を深めています。



参加者の声

人手不足の解消や、地域活性化をふまえた循環型社会を目指されていることは、素晴らしい取り組みだと思います。(紀ノ川農協)

「コープの森づくり」植樹資金の寄付

「コープの森づくり」は、海の生き物と、それを育む森を守る活動で、東海コープとして取り組みをすすめています。沖縄・恩納村の里海づくりや北海道・野付漁協のお魚を増やす植樹活動、インドネシア・マングローブの森づくりの関連商品の利用1点につき1円を1年間積み立て、植樹活動資金として寄付しています。

●寄付金額

サンゴ再生活動のための資金	141,470円
お魚を殖やす植樹資金	149,032円
マングローブ植樹資金	43,935円
合計	334,437円



参加者の声

環境のことや手間をかけていることなど、食に対して産地の方たちの熱い想いが聞けました。



コープの森づくりの 産地との交流

沖縄・恩納村漁協のみなさんとモズクを使った「海人料理交流会」や北海道野付漁協のみなさんとは鮭・ほたてを使った「浜の母さん料理教室」を毎年開催し、交流を深めています。

●産地との交流会

のべ回数	15回
のべ参加人数	333人

エシカル消費

「誰かの笑顔につながるお買い物」をキャッチフレーズに、環境と社会に配慮したエシカル消費の取り組みをすすめています。

コープの森づくり



商品の利用1品につき1円を積み立てて、森を守る取り組みをすすめています。

栽培自慢・はぐくみ自慢



環境に配慮した栽培方法や飼育方法などコープみえの基準で認証しています。

コープサステナブルシリーズ



主原料にサステナブル(持続可能)な原料を使用した商品を「コープサステナブルシリーズ」としてお知らせし、普及活動を行っています。

エシカル・サステナブルを学ぶ チョコブラウニーづくりを開催

環境や労働者の人権に配慮した、持続可能な農園で栽培されたカカオで作られているコープのチョコレートを使ったチョコブラウニーづくりを通してエシカル消費について学びました。



参加者の声

エシカル・サステナブルのマークが付いた商品を気にとめて見てみます。



組合員とすすめる商品活動

各地域で活動する「商品活動をすすめる会」では、組合員の声を基に商品の開発や見直しに取り組んでおり、2024年度は15品の商品が生まれました。



ロカエ オールインワンディークリーム商品開発

三重県産のキダチアロエ葉エキスを使用した、化粧品では珍しい地産地消商品です。成分から商品名、容器等すべて組合員と一緒に考えました。



アンゴラの学校づくりを支援するコアノンスマイルスクールプロジェクト

コアノンシリーズ1パック購入につき1円が、ユニセフを通じてアフリカのアンゴラ共和国に寄付され、子どもたちが楽しく学べる環境づくりに使われています。

●キャンペーン寄付額

第13期 (2023年11月1日～2024年10月31日)	1,341万4,724円
2010年～累計	1億5,213万7,602円



2 地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーの利用・普及活動



コープみえでは環境政策に基づく省エネ対策や、CO₂ 排出量の抑制、廃棄物の削減など環境負荷の軽減に取り組み、環境に配慮した商品の普及をすすめています。コープみえの取り組みと組合員の活動を通じて、生物多様性の保全と地球温暖化の防止に努め、持続可能な社会づくりをめざしています。

環境保全活動

環境美化運動に取り組んでいます

🌿 海岸清掃活動



海岸清掃では、漂着したゴミや海洋環境に悪影響のあるマイクロプラスチックの学習も行っています。

※マイクロプラスチック

プラスチックゴミが波や紫外線の影響で5mm以下に砕かれた細かい物質。

🌿 森の環境学習

(地域の自然と木に触れ、森が持つ大切な役割を学ぶ)

ウォークラリー、丸太切り体験、コースターづくり等の体験を通して森や木の大切さを親子で学びました。



🌿 「みえ環境フェア2024」へ出展

エシカル消費の案内やサステナブルの取り組みの紹介、端材を使ったクリスマスツリーづくりを行いました。



🌿 段ボールコンポストでSDGsを始めよう

段ボール箱を使って生ごみを有機堆肥にかえる企画を開催し、ゴミの現状や段ボールコンポストのメリット、生ごみを減らせばゴミ処理に掛かる税金を減らせる事を学びました。



参加者の声

空き地があるのでそこで野菜をつくりたいと思います。

環境活動寄付金贈呈



コープみえでは、環境活動に取り組む地域の環境活動団体の発展に役立てていただくことを目的に2004年から寄付活動を行っています。2024年度は6団体への寄付が決定し、環境活動寄付金贈呈式 環境活動団体交流会を開催しました。

団体名	寄付額
特定非営利活動法人 流域環境保全ネットワーク	100,000円
大台町生物多様性協議会	100,000円
NPO森と木	100,000円
特定非営利活動法人 NPOとばりサイクルネットワーク	100,000円
いなべ自然楽校	100,000円
環境学習サークルみえ	100,000円

※寄付金の原資は、牛乳パック回収収入と環境活動積立金。

地球温暖化防止活動

ISOの取り組み(EMS、QMSの活動)

ISOの取り組みをすすめ、CO₂排出量等の抑制やリサイクル、廃棄物の削減を行っています。

環境活動パフォーマンス報告、品質活動の報告

コープみえは、ISO14001規格にもとづき環境負荷低減の取り組みを行っています。また、組合員や地域・諸団体とともに、生物多様性保全、地球温暖化防止に向けた環境活動をすすめています。日常的な省エネ活動や、室温の適正管理、ノー残業デーやライトダウンの実施に取り組んでいます。



リサイクルを促進するエコセンター

エコセンターは、コープあいち・コープぎふ・コープみえと東海コープで、循環型環境社会の実現への貢献をめざして2016年に稼働し、リサイクルを推進しています。配送センターで回収している使用済みの商品案内やたまごパックを集積・圧縮して、環境資源として出荷しています。



	2022年	2023年	2024年
商品案内書の回収 (回収率)	2,085t 71,2%	2,022t 75,5%	1,955t 75,1%
内袋の回収 (回収率)	33t 32,6%	34t 34,4%	35t 34,8%

温室効果ガス削減の取り組み

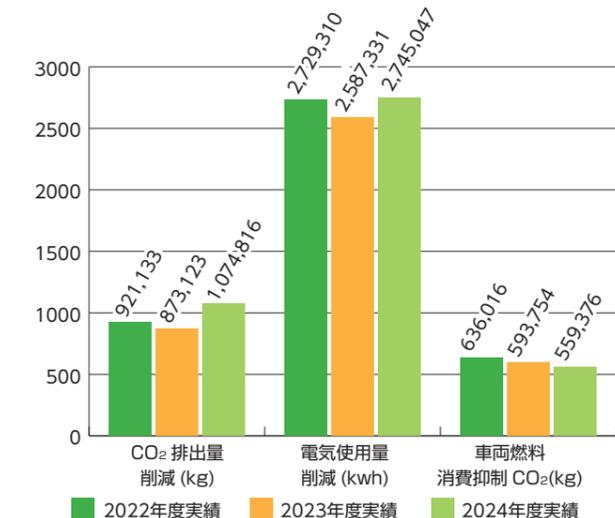
施設・設備の省エネ化と車両の電動化をすすめています。また、サステナビリティレポート発行にあたり、カーボンクレジットをすすめています。



取り組み例

配送センター	LED照明への切り替え、電気自動車の導入
店舗	店舗リニューアルに伴う太陽光発電の設置

CO₂排出量削減に向けた環境負荷低減の取り組み



コープみえでは2030年CO₂排出量60%削減(2013年度比)を目標に取り組んでいます。

3 | 世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動の推進



生活困窮者自立支援

地域での生活困窮者や貧困・格差の問題に向き合った活動をすすめています。玉城町より社会福祉の増進に貢献したことが評価され、福祉功労表彰を受賞しました。



ハンガー・フリー・ワールド

組合員の協力により回収した書き損じハガキや使用済みの切手等を回収し、換金して、飢餓のない世界をめざして活動しています。

ハンガーフリーワールド換金額 (書き損じハガキキャンペーン)	3,351,635円
-----------------------------------	------------

フードドライブ



店舗などでフードドライブの取り組みをすすめています。

※フードドライブとは
家庭で余っている食品を集めて、食品を必要としている地域のフードバンク等に寄付する活動のことです。

ユニセフ募金



コープみえの組合員、県内の諸団体のみなさんとともに手を携えてユニセフ募金に取り組んでいます。

ガザ地区で避難所となっていた学校が爆撃され、けがをした息子二人を抱きしめる母親 (パレスチナ、2025年4月3日撮影)

「ウクライナ緊急募金」	349,000円
ユニセフ一般募金 (2024年3～10月)	362,319円

4 | 核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動の推進



国民平和行進、ハート平和行進



ハート平和行進・国民平和行進にコープみえも毎年参加し、三重県内各地で核兵器廃絶・戦争反対をアピールし、平和のバトンをつないでいます。

へいわのおはなしおもちゃばこ



参加者の声

子どもが自由に意欲的に楽しむことができ大変良かったです。

子どもたちにもわかりやすい『へいわ』とはどういことなのかを考え学ぶ講座を定期的開催しており、ピクニ環礁水爆実験で被害を受けた魚の視点から描いた絵本「トビウオのぼうやはびょうきです」の読み聞かせなどが行われました。

5 | 誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりへの参加



震災支援・災害支援

能登半島地震・豪雨支援



石川県能登半島地震・豪雨の支援活動として、引き続きコープみえから職員を派遣し、息の長い被災地の復興支援に取り組んでいます。

派遣職員の声

キャリア支援課 嶋田 光恵

現地の方が日常生活にいち早く戻るための環境づくりを支援していきたいと感じました。



2024年度能登半島地震及び能登豪雨災害募金報告

募金総額 (2025年2月20日現在)	1,462,492円
---------------------	------------

地域と連携した災害に備える取り組み



四日市、津市、川越町の防災訓練や三重県の緊急消防援助隊への食料提供訓練に参加し、災害時にスムーズに対応できるよう地域とのつながりを深めています。

東日本大震災支援

福島県で今なお避難生活を強いられている方々と、ふれあいサロンにおける交流やつながりカレンダーの活動を通して交流を続けています。



子どもにやさしい空間～CFS～

災害時の避難所生活で、子どもたちが安心して安全に過ごせる「居場所」が必要です。CFS推進チームでは、CFSの必要性について、一緒に声をあげてもらえるよう、さまざまなイベントの場で「子どもにやさしい空間」を呼びかけています。



安全運転の取り組み



コープみえ安全運転指針を基本とし、地域の方が安心して暮らし続けられるよりよい地域社会づくりに貢献する取り組みとして安全活動をすすめています。自動車安全運転細則に則った同乗訓練等、役職員が体験する機会をつくり続けることで安全行動の習慣化を図っています。

交通事故発生推移表

年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
発生件数	53件	74件	58件	40件

5 誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりへの参加



地域へのお役立ち

事業活動を通じた見守り活動

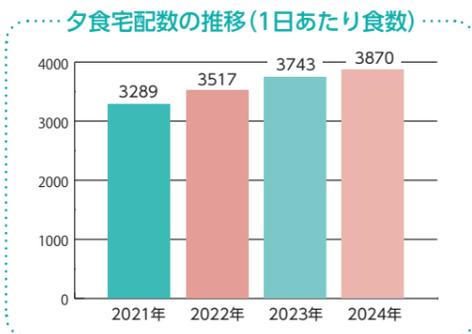
コープみえの宅配や夕食宅配の商品を定曜日に同じ職員がお届けすることを活かした見守り活動を実施しています。2024年度は、新たに糖尿病・腎臓病等を患っている方々に向けた介護食・医療食宅配や冷凍おかずセットの提供を開始しました。



利用者の声

病院で食事制限が必要と言われましたが、自分ですべてつくるのは大変で、どうしよう？と迷っている時に、生協で医療食を利用できることを知って安心しました。

夕食宅配の配達カバー率	99.8% (離島を除く県内全域)
緊急連絡先登録率	32.0%



横断旗を津市内の小中学校に寄贈

コープみえとこくみん共済coopが取り組む「7才の交通安全プロジェクト」の一環として、マイカー共済の見積もり1件につき横断旗1本を学校や関連の団体などに贈呈しています。

横断旗本数	贈呈学校数
495本	68校 (小中学校48校・中学校19校・義務教育学校1校)

くらしの相談窓口

「気軽に相談、一緒に考えます」をコンセプトに行政機関の窓口や無料法律相談窓口のご案内等、つなぎ役を担っており、これまで約1,700件の相談が寄せられ、くらしのセーフティネットとしての役割を果たしています。

子育て支援

コープみえ わくわくキッズフェスタ開催

地域で活動する子育てに関連した団体間の交流や子育て層のくらしにお役立ちもできる企画として開催しました。



子育てひろば

子育てひろばは、配送センターで月1回開催し、親子がホッとくつろいで交流できる場になっています。2024年度に四日市センターで再開され計5か所になりました。



LPAの会

組合員のより良いくらしのため、生命保険の見直しやくらしのお金に関わる学習会を各地域ですすめています。

6 健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動の推進



福祉活動寄付金贈呈式&交流会を開催

三重県で活動する福祉団体みなさんに寄付金を贈呈しました。福祉活動寄付金は、福祉に関する取り組みをすすめる団体や障がい者施設、福祉施設などを応援する取り組みで、今年度は6団体に寄付金を贈呈しました。



2024年度福祉活動寄付金贈呈団体と寄付額

寄付先	寄付額
特定非営利活動法人 TEAM創心	50,000円
つばめカフェ	100,000円
だーこキッチン	100,000円
子育て応援プロジェクト☆パイン	90,000円
障害や病気を持つ子供達とその家族のための素敵空間はあとくらぶ	100,000円
NPO法人フードバンク松阪	60,000円

福祉・助け合いの活動

福祉SC松阪での活動 防災避難訓練

いざというときに備えて！利用者さんといっしょに命を守る防災避難訓練を行っています。避難開始から予定時間以内に全員が無事施設から脱出できました。



楽しく学ぼう フレイル予防講座の開催

加齢とともに心身の生活機能や社会的つながりが弱くなった状態であるフレイル。フレイル予防についての学習や簡単な体操、バランス運動などを行いました。



利用者の声

初めてフレイル予防を学びました。学んだ内容を続けていこうと思います。

くらしの助けあいの会

困った時はお互いさまの精神で、組合員が行う有償の福祉活動です。高齢者や障がいのある方、産前産後や子育て家庭、病気やケガでお困りの方へ掃除、洗濯、買い物、食事づくりや話し相手、通院や外出の付添い、行事やご家庭での託児などを行っています。



検査センターの取り組み

東海コープ商品検査センターでは、組合員からの出資金をもとに検査体制と検査設備、検査項目の充実を図っています。生協で企画している商品の微生物や残留農薬、食品添加物、放射性物質などの検査を実施し、安全品質を確保する取り組みをすすめています。



2025年3月20日現在
2024年度の検査(2024年3月21日~2025年3月20日報告)

検査名	実施数	適合率
微生物検査	9156件	93.3%
残留農薬検査	496件	99.0%
食品添加物	40件	100.0%
放射性物質検査	77件	100.0%

商品検査センターでは食の安全安心、食と健康に関わる情報を提供しています。ウェブサイトをご覧ください。



7 ジェンダー平等(男女平等)と多様な人々が共生できる社会づくりの推進



次世代育成支援の取り組みとして子ども参観日を開催

子ども参観日は、コープみえ職員のお子さんを職場に招き、親の働く姿や職場見学・体験などを通して親の仕事を理解し、職員の働き甲斐につなげていく取り組みとし、13名のお子さんが参加しました。



女性活躍推進の取り組み・女性職員交流会の開催



女性特有の体の変化やリラックス方法など「心と体の健康」について学びながら、職員同士のネットワークづくりと今後のモチベーション向上につながる交流会を実施しました。

育児休業取得

コープみえでは誰もがいきいきと働き続けることができる職場環境づくりに取り組み、仕事と家庭の両立を支援しています。

育児休業または育児目的休暇(出生休暇)の取得率

年度/性別	男性	女性
2021年度	100%	100%
2022年度	100%	100%
2023年度	100%	100%
2024年度	100%	100%

三重とこわか健康経営カンパニー、経済産業省健康経営優良法人認定取得

三重とこわか健康経営カンパニーは企業における健康経営の取り組みの認証制度であり、コープみえは3年連続で同認定を取得しています。また、経済産業省の健康経営優良法人にも2年連続で認定されています。



マイヘルスアップキャンペーンで健康づくり

健康づくりに対する意欲向上や健康的な生活習慣・運動習慣の定着を目的とした取り組みをすすめています。

参加者の声

松阪センター 西村 俊哉

センターの目標達成も増加し、職員が健康について考える良い機会になりました。



24年度参加者数	162人
達成者数	86人

職員の声

鈴鹿センター 田中 久也

管理者という立場から取得を促すか悩みましたが、職場のメンバーから心強い後押しもあり、育児休業を取得しました。



ハラスメント研修

7～9月度には階層別、2～3月度では全職員対象のハラスメント防止研修を実施しました。



コープみえの内部統制システム・第三者意見

内部統制システム

コープみえの機関運営と組織、内部統制・マネジメントの取り組み

コープみえは、生協法をはじめ関係法令及び定款等に則った機関運営や業務執行の強化に努めています。

機関運営と組織

最高決定機関である総代会での決定に基づき理事会、常務理事会で日常執行がすすめられています。理事会の執行を監事会が監査し、決算会計については、監査法人による外部監査を実施しています。

内部統制活動

2024年度内部統制システム推進の基本方針に基づき、活動をすすめてきました。

基本方針	2024年度の主な取り組み
1. 理事及び職員の職務の執行が、法令及び定款などに適合していくための体制を整備し、取り組みをすすめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・法令等の制定、改正の情報収集や遵守監視・確認を毎月開催される内部統制推進委員会と共有してきました。 ・職員ハンドブックを全職員に配布し、周知・徹底をはかりました。 ・コンプライアンス及びハラスメントの管理者研修会を実施しました。またウェブによる意識調査アンケートを実施し、各職場で調査結果の共有とまとめを実施しました。 ・通報・相談窓口の周知と対応をすすめ、ハラスメント内部相談窓口に5件、外部相談窓口に9件の相談がありました。
2. 生協の事業及び財務の状況の情報開示、理事の職務執行に関わる情報管理を適切に行う体制を整備し実行していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護、機密情報管理の一般学習会を実施しました。 ・個人情報、機密情報の台帳メンテナンスや事故発生時の監視と対応をすすめました。 ・パソコン管理基準に基づくセルフチェック等を実施しました。
3. 事業の遂行の障害や損失の要因となる「リスク」を管理し、損失予防や緊急事態に備える体制を整備し、実行していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・重要リスク評価と重点リスクの特定と対応計画を作成し、内部統制推進委員会で確認してきました。 ・管理者対象にリスクマネジメント研修会を開催しました。 ・事故・ヒヤリハットの事例の集約と予兆への予防対策を実施しました。 ・災害マニュアル、避難マニュアルの整備やMCA無線、緊急時の連絡網の訓練等が実施されました。
4. 理事及び職員の業務の執行が効率的に行われるしくみや体制を整備していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度の体制変更に伴い、規程集の更新、整備をすすめ、ウェブでの閲覧を実施しました。 ・内部統制に関するセルフチェックを実施しました。 ・ISO9001の運用のなかで、業務フローの見直しや業務改善等をすすめました。 ・統合された内部統制の内部監査とMS内部監査を、全部署で実施しました。
5. コープみえの関連する会社等における業務の適正を確保する体制を整備していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・関係会社管理規程に基づき、関連会社となる(株)スマイルサービスみえの総会への参加や対応をすすめました。
6. 監事監査及び監査業務が実効的に行われる環境を整備していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・監事会と代表理事の定期懇談や経営組織監査を実施しました。

〈サステナビリティレポート第三者意見〉

「コープみえSDGs行動宣言」に沿って、2024年度も交流、学習、支援などの多様な活動を展開したことがわかります。これらの活動から、人と人とのつながりの大切さや支えられている安心感、共によりよく生きようとする仲間への思いやりや優しさ、よりよい地域や生活環境を創生するエネルギーを感じることができます。2014年からの10年間の歩みからは、持続可能な社会の実現に向けて、組織の拡大とともに新たな活動の開拓・充実の様子が読み取れます。また行政や社会福祉協議会と協定(地域見守り協定、生活困窮者自立支援協定、災害支援協定)を結びつつ、地域に密着した必要不可欠な組織としての存在感を高めていることも分かります。

コープみえの活動の中で今回特に注目したいのは支援の活動です。生活困窮者自立支援、能登半島地震・豪雨支援、東日本大震災支援、

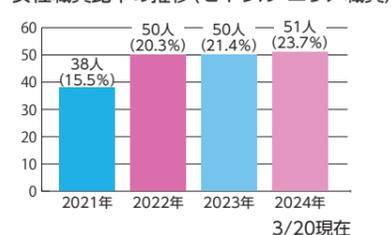
子育て支援などの人的支援の他に、「コープの森づくり」植樹資金寄付、環境活動寄付金贈呈、福祉活動寄付金贈呈、能登豪雨災害募金、アンゴラ共和国の学校づくりへの寄付、ユニセフ募金などの金銭的な支援も積極的に行っており、健全な財政運営の下で組織力の強さが発揮されているように思われます。

コープみえの活動については、2024年度には玉城町より福祉功労表彰受賞、また三重とこわか健康経営カンパニー3年連続認定、経済産業省健康経営優良法人2年連続認定など、すでに第三者から高い評価を得ており、コープみえの活動の質の高さがうかがえます。これからもSDGsの2030年到達目標を視野に入れながら、人々のくらしに寄り添った活動を継続していただくことを願っております。

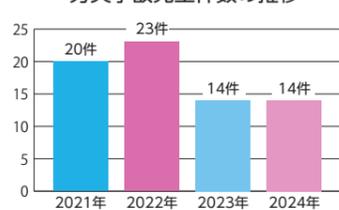
吉本 敏子(消費者市民ネットワークみえ代表 三重大学名誉教授)

女性職員比率推移グラフ、労災事故発生件数、障がい者雇用率の推移

女性職員比率の推移(ゼネラル・エリア職員)



労災事故発生件数の推移



障がい者雇用率の推移



● 編集方針 ●

コープみえの事業・組織、組合員活動、社会貢献活動・環境の取り組みについて報告しています。報告対象期間は2024年3月21日から2025年3月20日の期間とし、コープみえの活動のほか、関連する東海コープ事業連合の活動、情報を含んでいます。



2025年 コープみえ
サステナビリティレポート

発行月：2025年6月

お問い合わせ先

〒514-0009 三重県津市羽所町379

生活協同組合コープみえ 機関運営部

TEL 059-271-8507 FAX 059-222-5025

ホームページ <https://www.coop-mie.jp>



資源や環境に配慮して、エコインキと再生紙を使用しています。このサステナビリティレポートは、カーボンオフセットされています。サステナビリティレポート1部のCO₂排出量は約266gです。